



2011 (第 41 回) 九州オープンゴルフ選手権競技決勝

競技報告・最終R (2011/09/04)

写真と記事：GUK

栄冠はプロ6年目、28歳の 福永光伸(フリー、宮崎)の頭上に

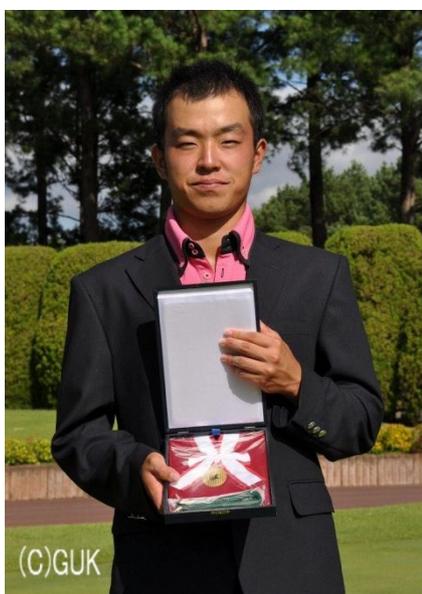
ベストアマは時松源藏(筑紫ヶ丘)で 2度目の獲得

最終ラウンドが4日、大分市の大分カントリークラブ月形コース(7177ヤード、パー72)で行われ、プロ6年目の28歳、伏兵の福永光伸(フリー)が通算1アンダー、215のスコアで初優勝した。アンダーパーをマークしたのは福永ただ1人。

アマチュアのトップに贈られるベストアマは、2打差の2位になった福岡・沖学園高3年の時松源藏(筑紫ヶ丘)で、2009年大会以来2度目。今季は九州アマチュア優勝に続く「アマ2冠」を獲得した。



栄冠を手に喜びの福永光伸



2度目のベストアマ
を獲得した時松源藏

大会史上初めてのサスペンデッドも経験

台風21号の接近で雨、風に泣かされ、初日の第1ラウンドはサスペンデッドに。そして迎えた最終日は午後からは、台風一過の好天に恵まれたものの、深いラフと、高速グリーンというオープン特有のコース設定が選手を苦しめた。

そんな中で、首位に2打差の2位タイで最終日を迎えた福永は1、2番で連続バーディーと幸先良くスタート。ところが、その後はボギーが先行するなど出入りの激しいゴルフとなったものの、終盤の17、18番で連続バーディーを奪い、逆転勝利をものにした。

さらに1打差の3位タイにアマチュアの千葉蒼隼(若松)と白濁英純(九州八幡)、永野竜太郎(フリー)の3人。

サードアマの宮崎・日章学園高2年、香妻陣一朗(宮崎レイクサイド)までの上位6人(6位タイからマッチングスコアカード方式で選出)が第76回日本オープンゴルフ選手権(10月13日から、千葉県鷹之台CC)への出場権を得た。



28歳の苦労人、福永光伸

「親に苦労かけた、少しは報えたかな…」

戦前の下馬評ではノーマーク。それが混戦の隙間を縫うようにスルスルとトップに躍り出、栄冠を手にした。

「まさか自分が優勝できるとは。けど、今日はスコアも伸びないだろうなあ、我慢比べだな、と自分のゴルフに徹した」という。

首位に2打差の2位タイでのスタート。しかも、1歳違いの弟の安伸も同組。光伸は1、2番の連続バーディーで色気も出たか、「体がかたくなってしまった」という。6番に続く9番でもボギーを打ち、振り出しに戻ると、「逆に気が楽になった」そうだ。以降は3バーディー、2ボギーで、上がってみれば、ただ1人のアンダーパーをマークしての優勝が転がり込んできた。

宮崎県国富町出身。元々は柔道少年だったが、親のゴルフの練習について行ったのがきっかけで小学6年でゴルフを始めた。主に自宅での練習。宮崎第一高時代の2000年九州ジュニアの15～17歳の部で優勝した経験を持つ。

卒業後はプロを目指すのが、勧める人があって単身、中国に渡り、マカオ近くのゴルフ場で研修生になった。食事の中華料理は口にできても、「言葉もわからない。苦労しました」。2年間頑張った21歳の時に帰国。

一時はスイングを乱して芽が出ず、「きつい思いをずいぶんした」。が、3度の挑戦でプロテストに合格し、2006年念願のプロゴルファーに。とはいえ、賞金を稼がなくては、食べていけない。「遠征費はやりくりして賄っているが、食べる分はまだ親に頼って…」と小さな声で話してくれた。

「ゴルフのいいところは、人との競争ではなく、自分との競争」(福永)。それに、年齢に関係なく生涯取り組めるスポーツ。「そんな魅力で取り組んでいる」というが、「苦しいときもあったが、応援に駆け付けてくれた両親に報えた」とちょっと目を潤ませた。

この後は、3度目の日本オープン出場。九州チャンピオンで出場するが、「まずは自分のゴルフをしっかりと心がけて…」と心に期するところがあるようだった。(K i k u)

「復調した時松を少しは見せることができたかな？」

日本オープンに意欲の時松源藏

首位に2打差の2位タイでの最終日。優勝こそ逃したものの、プロとのオープン競技で単独2位(ベストアマ)になり、表情も明るかった。

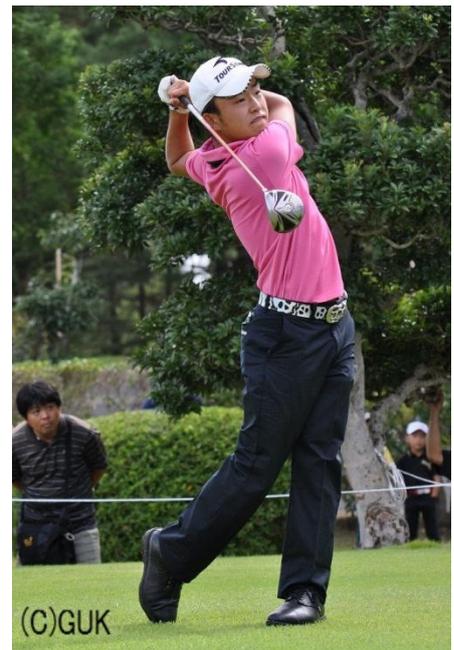
今季は日本ゴルフ協会(JGA)のナショナルチームメンバーにも選ばれ、気合が入ったシーズンを迎えた。最終学年で、主将。「それなりの結果を残さないと」と言った時松だった。

6月の九州アマチュア選手権初優勝でその1つの結果を出した。ところが、以後、日本アマ、九州ジュニアとふるわず、日本ジュニアにすら出場することができなかった。

「スイングがどうのこうのと言うより、自信をなくしていた」と時松は振り返る。周囲の期待の目は高まり、さらに結果を出さないと、と追い込まれる。悪い方へと悪い流れが下って行った。

そんな時松がピンチを乗り切ったのは、「練習を増やした結果だった」と言う。九州アマチュア界の第一人者で、師匠でもある篠塚武久氏によると、「その練習も、1球1球を大事にするし、ゴルフに対する姿勢も真摯なものがある。だから克服できるんじゃないか」と証言する。

アマ界のライバルやプロを差し置いての2位は立派なものだ。この後は、日本オープン。悪い流れを断ち切り、本当に復調した時松を表現できるかどうか、周囲の目はさらに熱く注がれるはずだ。(K)





2011(第41回)九州オープンゴルフ選手権競技決勝

競技報告・第1R-第2R (2011/09/03)

写真と記事：GUK

アマの高校生、香妻陣一朗(宮崎・日章学園高2年)が単独首位

2打差2位タイに

福永光伸プロ(フリー)やアマの福岡・沖学園高3年の時松源藏(筑紫ヶ丘)ら6人



単独首位に立ったアマの香妻陣一朗

大会2日目の3日は、大分市の大分カントリークラブ月形コース(7177ヤ、パー72)でサスペンデッドになった第1Rの残り試合と、第2Rが行われた。

この日も台風12号の余波で強い風に見舞われた中でのラウンドとなったが、通算イーブンパー、144の宮崎・日章学園高2年、香妻陣一朗(宮崎レイクサイド)が単独首位に立った。

香妻は初日の第1Rは3ホールを残して中断。この日は残りホールを消化して73で終了。続く第2Rでは1アンダー、71で回り、通算イーブンとして7位タイから首位に躍り出た。

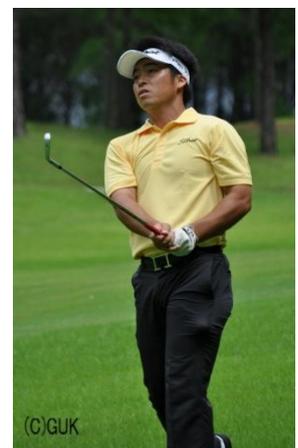
5打差に26人がひしめく大混戦

台風余波の悪コンディションにスコアは伸びず、首位に2打差の通算2オーバー、146の2位タイにはプロ、アマ6人がつけ、さらに1打差の通算147の8位タイには3人。首位以下、5打差の19位タイまでには計26人が並ぶ大混戦となった。

この日で予選ラウンドが終わり、通算12オーバー、156の73位タイまでの

81人が最終日の決勝ラウンド(18ホールストローク)に進んだ。

最終日は、コース整備の後、午前8時にアウト、イン同時にスタートする。



2位タイの
福永光伸

ジュニア勢(高校生)が台頭 プロを脅かす

このところジュニアの活躍が目立つ九州のゴルフ界だが、プロ、アマのオープン競技でもジュニアが台頭してきた。

台風12号の影響でサスペンデッドになった九州オープン選手権は3日に再開、第2ラウンドまでを実施した。雨は上がったものの、風速9~10mの強い風がふきつけ、各選手ともスコアメイクに悪戦苦闘。

そんな中で香妻が単独首位に立てば、2打差に高校生ライバルがつけた。今年、JGAのナショナル選手入りした時松と、このところ日本の生活にも慣れ、頭角を現してきた韓国からの留学生、福岡・沖学園高2年の朴正

煥（福岡セヴンヒルズ）だ。

「アンダーパーでV目指す」香妻陣一朗

香妻は前半1アンダーのあと、後半は手堅くパープレー。上がってみれば、単独首位。好結果に、最近自信がなかったけど、攻めてみたら悪くなかった。ドライバを少しは曲げても、グリーンの近まで行けばパーが取れるかな、と。ゴルフに対する自信でしょうか」と分析する。



最終日は「日本オープンの出場権もだが、アンダーを出して優勝を狙いたい。60台出ないことない」と言い切った。

自身の復調を占うラウンドにかける時松源藏

今年の九州アマチュア選手権を制した後、日本アマ、九州ジュニアと生彩を欠いていた時松だが、「どこことって体調が悪いわけでもないし、気持ちの問題だったと思います」と言う。

この日は73、73と手堅く回り、2オーバー。「第2Rで5番から3連続ボギーで落ち込みかけたが、気合を入れ直して踏みとどまることができた」と言う。自分自身でも、「この試合で復調できるかどうか、自分でもかけてきた」と、逆転にかける意

欲は強い。

「日本オープンに出たい」朴正煥

昨年、韓国ソウルから、福岡の沖学園高に留学してきた。年齢は18歳だが、2年生。「風が強いので、気楽に、まっすぐにと考えていったのがよかったのかな」。

「日本のツアーでプロになりたい。そのためには、早くからニッポンの生活に慣れてほしいが…」と来日。11歳、小学5年からのゴルフで、181センチ、76キロと豊かな体格を利用してパワフルなゴルフをする。今年は九州ジュニアで3位に入り、この九州オープンで、日本という舞台へ挑戦できる位置まで来た。「6位までに入って日本オープンに出たい」と目標を口にした。（K）



「出来すぎ」とプロ3年目の佐藤祐樹（熊本空港）

ショットが当たり、ロングでバーディーが取れた。前日（第1R）はショットがひどかったので、終わって練習したのが良かった。今年は、日本オープンに出場できるチャンスかな。頑張ります。

ボギーを打たないパーゴルフを目指した重永亜斗夢（阿蘇）

第1Rは雨で距離が出なかったけど、今日は距離も伸びた。うまくかみ合った感じ。（予選会＝マンデー競技からの出場権）最近調子が悪かったけど、少しでも上位に行って、賞金を確保したい。





2011(第41回)九州オープンゴルフ選手権競技決勝

競技報告・第1R (2011/09/02)

写真と記事：GUK

台風12号によるサスペンデッドに

第1Rの競技は2日、大分市の大分カントリークラブ月形コース(7177ヤ、パー72)で始まったが、台風12号の接近に伴う雨、風が強まり午後2時40分に中断、そのまま天候回復が望めずサスペンデッドになった。

大会2日目(3日)に 残りホールと第2Rを実施予定

雨で気温25.9度、北北西の風6m(正午現在)。午後からは雨脚も強まったことから、断続的に競技委員会(塚根卓弥委員長)が開かれた。この結果、競技はサスペンデッドとし、残りは2日目の3日午前7時から、それぞれの残りホールを消化。

既に第1Rをホールアウトしていた選手については同8時スタートで、第1Rの組合せで第2Rを実施することになった。



断続的に開かれた競技委員会



サスペンデッドとすることが決まり、
競技委員会から選手に説明された

初日パープレーで暫定首位に佐野木晶裕(ハウステンボス)

初日の競技(第1R)でホールアウトできたのは50選手(うち失格1人)。この中で、イーブンパー、72の35歳の佐野木晶裕(ハウステンボス=写真)が暫定トップに立った。

雨、風でスコアが伸びない中で、第1組のスタートだった佐野木は3バーディー、3ボギーと安定したスコアで回った。2打差の2位タイには岩尾直樹(41歳、北九州ゴルフアカデミー)、米倉健太郎(35歳、フリー)と、アマチュアの朴正煥(福岡セブンヒルズ、福岡・沖学園高2年)の3人がつけた。





2011(第41回)九州オープンゴルフ選手権競技決勝

競技報告・大会前日 (2011/09/01)

写真と記事：GUK



明日9月2日から、大分CC月形コースで 選ばれたプロ、アマ選手が参戦

2011(第41回)九州オープンゴルフ選手権競技(賞金総額1500万円、優勝300万円)は9月2日から3日間、大分

市の大分カントリークラブ月形コース(7177ヤード、パー72)で行われる。

昨年は第40回の記念大会として九州女子選手権優勝者らが特別枠で出場したが、今大会からは通常の大会となる。

出場するのは、九州プロゴルフ研修会が推薦する九州沖縄

在住のプロ40人、今年の九州アマチュア選手権上位40人や、過去5年間の優勝者、開催県加盟倶楽部の前年度クラブ選手権保持者(10人)ら。これに、予選競技(マンデー)での通過者を加えた計142人。



若手プロには飛躍の舞台

プロは、前年優勝の23歳、高松竜也(トータル・メディカルサービス)や、研修会ランク上位で参戦する05九州学生優勝歴を持つ25歳の日高将史(いけうちゴルフ、九州東海大出、宮崎)、26歳の森一光(フリー、冲学園高出、長崎)らの若手に期待がかかるほか、過去2度(03、06年)の優勝歴を持ち、今季も東急大分オープン(3月)、JGTTOチャレンジカップ(5月)で優勝するなど好調の45歳の白濁英純(九州八幡)ら、ベテラン組が絡む戦いになりそう。シード選手ら主力組は例年通り、同一週にあるツアー競技のため不参加。

ジュニア、若手に注目のアマチュア

アマチュアは高校生のジュニア勢に主力がそろった。

ナショナルチームのメンバー入りし、今年の九州アマを制した福岡・冲学園高3年、時松源藏(筑紫ヶ丘)を始め、時松と優勝を争った宮崎・日章学園高2年、香妻陣一朗(宮崎レイクサイド)、ホームコースで迎える昨年の九州アマ優勝者、冲学園高2年、三重野里斗(大分)らが注目だ。時松は九州アマ後、日本アマ、九州ジュニアと調子を落としていたが、復調が見られるか。

これに、今年の九州アマ選手権で4位に入った嘉数光倫(阿蘇、東海大4年)や、九州学生選手権を制した柴田求仁貴(皇月、日本経済大2年)、大学を中退してプロを目指している昨年のベストアマ、19歳の成松亮介(宮崎国際空港)、さらには昨年の九州オープン4位タイでセカンドアマの28歳、平井皇太(奄美)らの若手がプロに挑む。

九州オープンでは過去、05年の大倉清(大博多)、08年の尾方友彦(グリーンランドリゾート)と2度、アマチュアが優勝しており、アマのレベルが高い九州はプロにとっても気の抜けない3日間になりそうだ。

挑戦者を待つ本格的コース

会場の大分CC月形コースは1972年(昭和49年)秋に開場。高原風のなだらかな起伏が続く丘陵コースで、距離もあるチャンピオンコース。九州オープンには1988年(昭和63年)以来、2度目の開催になる。